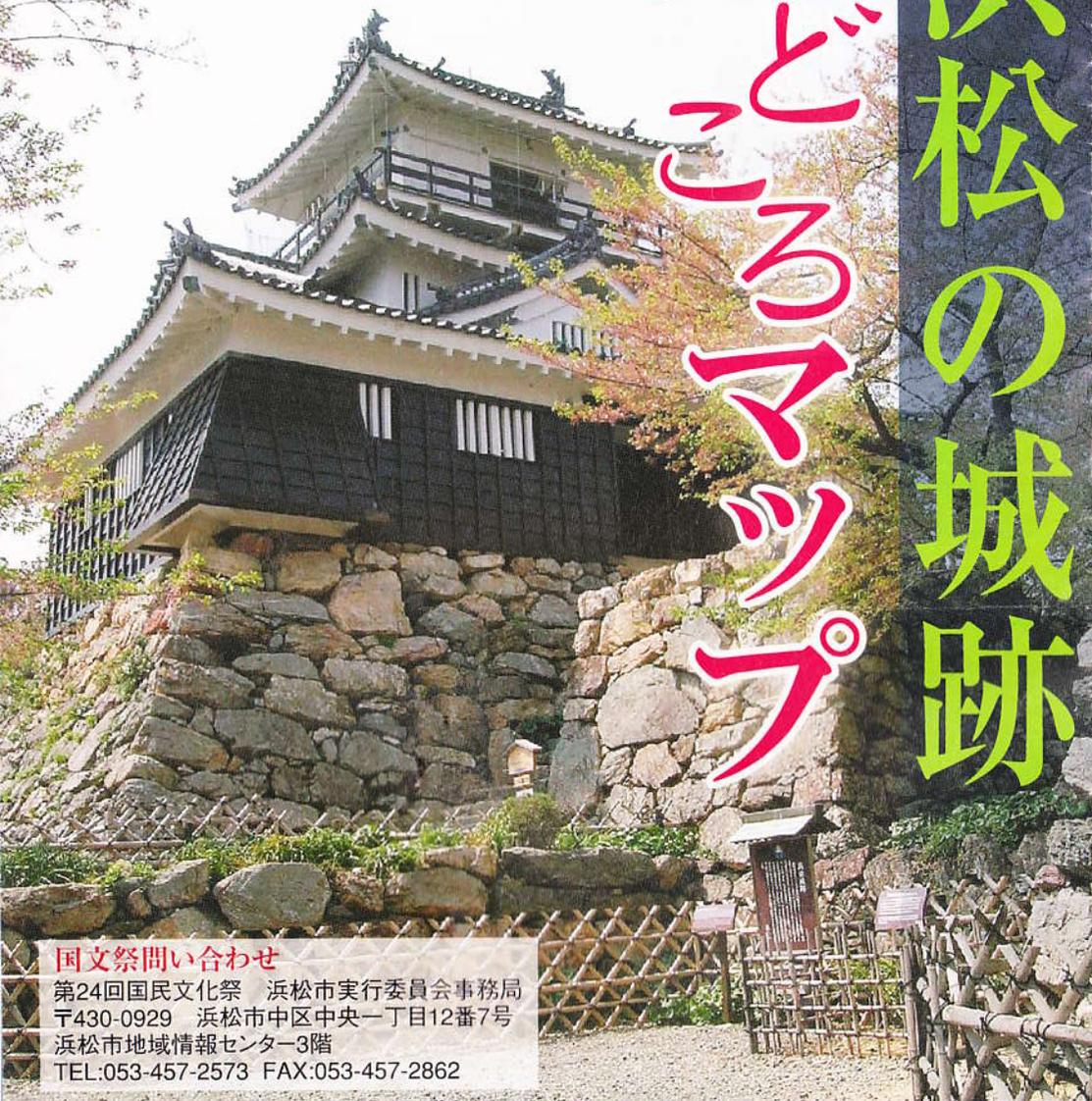


城跡フェスティバル

見どころマップ
 浜松の城跡



国文祭問い合わせ

第24回国民文化祭 浜松市実行委員会事務局
 〒430-0929 浜松市中区中央一丁目12番7号
 浜松市地域情報センター3階
 TEL:053-457-2573 FAX:053-457-2862

城跡のことはこちらへお問い合わせください

生涯学習課文化財担当

浜松市博物館

〒430-8652 浜松市中区元城町103-2
 TEL: 053-457-2459 FAX: 053-457-2563
 E-mail: bunkazai@city.hamamatsu.shizuoka.jp

〒432-8018 浜松市中区舘塚4-22-1
 TEL: 053-456-2208 FAX: 053-456-2275
 E-mail: hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

鳥瞰図



鳥羽山城本丸大手門

当城は、二俣地区にある三城の中で最も立地が良いので、古くから何らかの施設が置かれていたと考えられる。天正3年に徳川家康が武田方の二俣城を奪回するために、ここを本陣にしたという。その後、整備・拡張され、二俣城と別野一城の城として機能し、二俣城と同時期に廃城になったと考えられる。曲輪・虎口・折形門・土塁・堀切など多くの遺構があり、特に一角に残る枯山水の庭園跡は、全国的に珍しいといわれている。

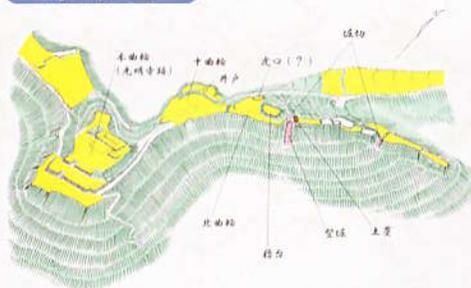


アクセス

天竜浜名湖鉄道二俣本町駅から徒歩約10分。
 遠州鉄道バス停鳥羽山公園入口から徒歩約10分。
 車では、国道152号経由で城跡(公園)入口まで(駐車場・WC)。

とばやまじょう
 鳥羽山城

鳥瞰図



旧光明寺石垣

旧光明寺跡地に所在した城で、二俣と犬居を結ぶ旧秋葉街道沿いにある。行基が開創したとされる光明寺を、戦国時代に今川氏が築城したとされる。その後、武田氏の城として重要な役割を果たすが、天正3年に徳川軍に攻め落とされた。山頂に残る石垣などの寺院遺構が光明山遺跡として保存され、その周辺に曲輪、堀切などが残る。標高540mからの眺望が特にすばらしい。

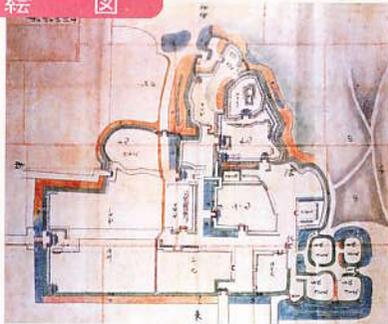


アクセス

車利用で国道362号(または152号)経由で、山東地内から林道光明線に入り城跡(光明山遺跡内)前まで8km(駐車場・WC)。

こうみょうじょう
 光明城

絵 図



徳川家康は元亀元年(1570)に引馬城(現在の東照宮周辺)に入城し、城の拡張・整備に取り掛かった。天正9年(1581)頃には浜松城の概要が出来上がったといわれる。家康は天正14年までの壮年期を、浜松城で過ごした。天正18年には豊臣系の堀尾吉晴が浜松城主となった。この時代に大規模改修が行われ、天守をはじめとする瓦葺の建物や石垣が造られた。現在も残る野面積みの石垣は、この時期のものである。市指定史跡。

アクセス

遠鉄バス/JR浜松駅バスターミナル13,14番「浜松城公園前」下車、徒歩1分。
車では、浜松ICより約30分、または浜松西ICより約30分。周辺に有料駐車場あり。

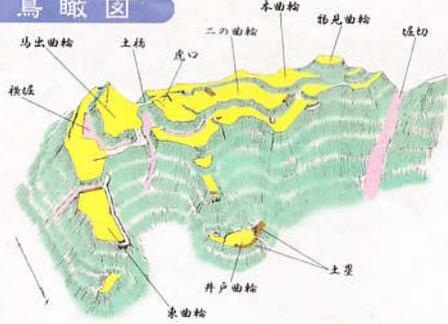


はま まつ じょう
浜松城



浜松城復興天守

鳥 瞰 図



承久の乱後、山香庄(現在の北遠一帯)の地頭となった鎌倉幕府御家人天野氏の戦国時代の本拠である。天野氏は戦国時代、今川氏の配下として活躍するが、桶狭間の戦の後、今川氏が衰退の中、徳川家康に従属し、さらに武田信玄が北遠をうかがうと、武田氏に従った。その後、長篠の戦いで武田軍が大敗すると、翌年、徳川軍の攻撃を受け落城、やがて天野氏は北遠の地を去った。現在、曲輪・堀切や土橋などの遺構が残る。犬居城は多くの支城が確認されており、全国的に見ても例がないと言われていてる。県指定史跡。

アクセス

車利用で国道362号線沿い春野ふれあい公園(駐車場・WC)から徒歩約30分。
犬居城登り口にも駐車場(約3台)、徒歩約15分。

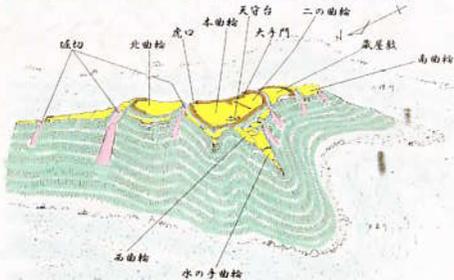


犬居城模型

いぬ い じょう
犬居城

鳥 瞰 図

※本紙で使用した鳥瞰図は、関口宏之氏が作成したものを許可を得て使用した。



元亀3年、上洛をめざして武田軍が遠江に侵攻し、二俣城を囲むが、天竜川と二俣川に囲まれた堅城のため攻略できなかった。武田軍は天竜川上流から筏を流し井戸槽を破壊、水の手を絶つ作戦により二俣城の籠城軍を降伏させた。現在、天守台・枳形虎口や大手門の石垣等が残るが、それらは豊臣系大名堀尾氏の築城と考えられる。家康の長男信康が自害させられた悲劇の城として広く知られている。市指定史跡。

アクセス

天竜浜名湖鉄道天竜二俣駅から徒歩約25分(二俣本町駅から徒歩約10分)。
遠州鉄道バス停城下通から徒歩約7分。
車では、国道152号経由で城跡入口まで(約6台分駐車場・WC)。

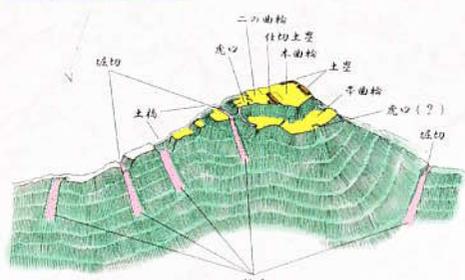


ふた また じょう
二俣城



二俣城大手門

鳥 瞰 図



戦国末期に犬居城を本拠とする天野氏を討つために、徳川方によって築城された可能性が高い城である。犬居城とは気田川をはさんだ山の中にあり、20m四方の広さをめつ本曲輪のほか、二の曲輪、腰曲輪、堀切などが残る。市指定史跡。

アクセス

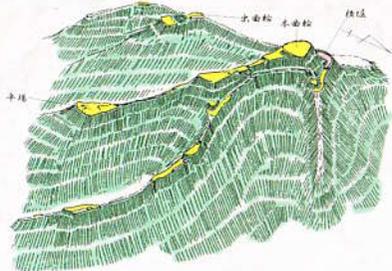
車利用で、国道362号線沿い春のふれあい公園(駐車場・WC)から徒歩60分。



堀之内の城山(正面の森)

ほりのうち
堀之内の城山

鳥瞰図



中尾生城遠景

戦国時代、今川氏の北遷における支城として重視されていた。それは、当時の古文書(享祿・天文・永祿期-16世紀-)に登場することからも裏付けられる。山深い標高479mの山稜一帯に曲輪・土塁・空堀などの遺構を残している。旧秋葉街道など幾つかの古道が通じる交通や軍事的な要地であったとされ、県下で最も天険で要害堅固な城であったと言われている。

アクセス

車利用で国道152号線から県道白倉西川線(県道361号線)に入り白倉方面へ進む。中日向バス停を右折してから城山稲荷登山口まで約3km(約3台駐車可)徒歩約10分。
※未舗装道路も通行するため天候や道路状況に注意。または、市ノ瀬を過ぎてから林道小松野線に入り800m進む(約3台駐車可)徒歩約25分。



なかびろうじょう
中尾生城

縄張図



上空から見た大平城

南北朝期に密教系山岳寺院を利用して築かれた城で、井伊氏が後醍醐天皇の第8皇子宗良親王を盟主に北朝方に対抗した際の三岳城の支城のひとつ。北朝方の攻撃により、本城三岳城が落城したのちも抵抗したが、その翌年落城した。その後、戦国時代になって、徳川家康が武田信玄の奥三河山岳地域からの進入に備え、大規模な改修をしたと考えられている。市指定史跡。

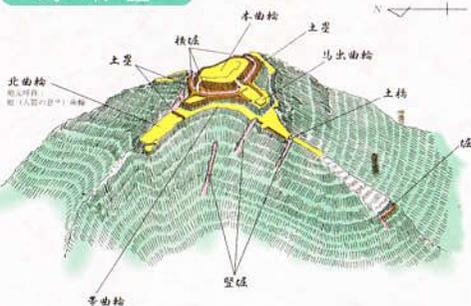
アクセス

天竜浜名湖鉄道宮口駅から県道68号線を大平地区方面に約4km、山麓に城案内看板と駐車場、徒歩約10分。



おいだいらじょう
大平城

鳥瞰図



上空から見た鶴ヶ城

三遠国境に作られた城であり、相川と古沢川に囲まれた要害の地である、『遠江国風土記伝』に、川上にあり、「城主は鶴山大磯之丞、其臣山田半之尉、熊千代丸、時代詳ならず」と書かれているだけで、他の文献にはまったく見えない城である。標高340mの山頂には30m四方の広さを持つ本曲輪があり、それを中心に曲輪や堅堀、横堀などが残る。

アクセス

JR飯田線東栄駅から徒歩約25分。車では主要地方道飯田・富山・佐久間線(県道1号)から主要地方道天竜東栄線(県道9号)に入り熊方面へ約300m(約10台駐車可)徒歩約10分。



つるがじょう
鶴ヶ城

鳥瞰図



三岳城本曲輪

三岳山頂の城。南北朝期には井伊氏の本城として南朝方の拠点となるが、暦応2年(1339)に北朝方の攻撃により落城した。戦国時代には井伊氏が三岳城に拠り今川方に抵抗したが、永正10年(1513)に落城した。その後、今川氏や徳川氏によって改修されたが、天正年間には使われなくなった。本曲輪、二の曲輪、帯曲輪等が残るが、これらは戦国時代に改修されたもの。国指定史跡。

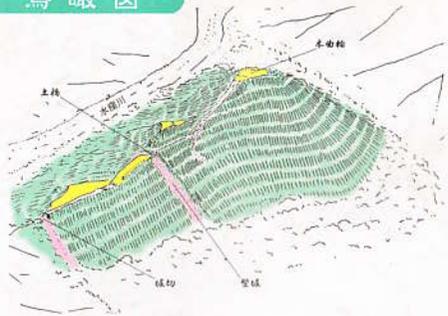
アクセス

東名高速道路浜松西ICから国道257号線経由で引佐へ向かい、井伊谷の信号を東へ3km、三岳神社駐車場から登山道を約30分。



みたけじょう
三岳城

鳥瞰図



若子城遠景

水窪川と大洞沢に囲まれた要害の地にあり、近くを信州街道が通る。
奥山氏一族の城で、南北朝時代の創築とされる。
武田氏の南下とともにその傘下に入っていたとされ天正3年の武田氏の敗退により、家康の北遠地方への進出が始まる中で平定された。
標高331mの山頂に本曲輪があり、尾根伝いに曲輪や堀切などが残る。
周辺にある巨大な岩などが、往古の趣を醸し出している。

アクセス

JR飯田線西駅から徒歩約15分(国道152号線沿いに進み城西大橋を渡る)。車では国道152号線沿いの城西基幹集落センター(駐車場・WC)から徒歩約20分。



わかごじょう
若子城

縄張図



千頭峯城堀切

南北朝時代に井伊氏一族奥山氏によって築造されたと伝わる。
三岳城の支城のひとつであり、暦応2年の北朝方の攻撃により、本城の三岳城とともに落城した。
その後、戦国時代になると、武田氏の侵攻に備えた徳川家康の手により大規模な改修が行われた。
県指定史跡。

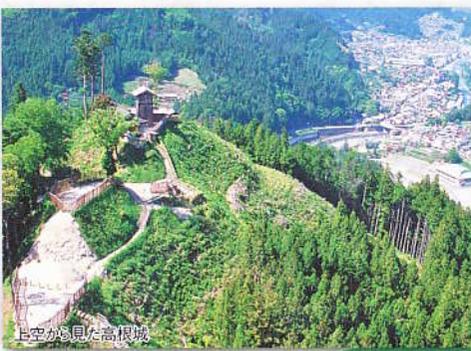
アクセス

東名高速道路三ヶ日ICから三ヶ日・摩訶耶方面へ約7km。オレンジロード沿いの駐車場から徒歩約15分。



せんとうがみねじょう
千頭峯城

鳥瞰図



上空から見た高根城

遠江最北端の山城。この地の豪族奥山氏が南北朝時代、後醍醐天皇の孫由機良親王を守るために築いたとされる。
戦国時代、今川・徳川・武田の勢力争いの狭間で内部分裂を起こすが、元龜3年の武田信玄の遠江侵攻時には、武田方の城として、青崩峠越えの警備を任された。
現在、城門・井楼櫓(せいらうやぐら)・礎石建物・木柵などが復元されている。
中世の山城としては、全国で初めて全面発掘に基づき再現された。市指定史跡。

アクセス

JR飯田線向市場駅から徒歩約30分。車では国道152号から水窪橋を渡り高根城公園駐車場(WC)へ。徒歩約20分。



たかねじょう
高根城

縄張図



上空から見た佐久城(手前の岬)

浜名湖湾岸に築かれた城。
南北朝期の貞和4年(1348)に浜名清政が築城したと伝わる。以後、代々の浜名氏の居城となった。
承祿11年(1568)、浜名頼広は遠江に侵攻した徳川家康に佐久城で抗戦したが敗れ、没落した。
以後、徳川方の城となったが、天正11年(1583)に小湾を挟んだ北側半島に野地城が築城され、廃城となった。
本曲輪や馬出曲輪、深く掘られた空堀が残る。市指定史跡。

アクセス

東名高速道路三ヶ日ICから県道310号線を新瀬戸橋方面に向かい、東急リゾートタウン内から岬先端へ。



さくじょう
佐久城